

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

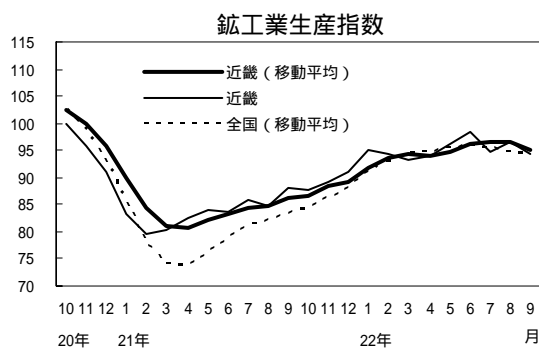
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 8 月)	今回 (平成 22 年 11 月)	
景況判断	持ち直しの動きがみられる	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	おおむね横ばい	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、アジア向けの半導体・フラットパネル製造装置が減少したものの、金属工作機械や化学機械が増加したことなどから、横ばいとなっている。化学は、化粧品を中心に増加している。食料品・たばこは、猛暑により飲料が好調であったことを主因に増加している。電気機械は、猛暑によりセパレート型エアコンが好調であったものの、電池がアジア向けなどで減少したため、横ばいとなっている。鉄鋼は、設備のトラブルの影響により減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期		
一般機械	17.0	5.4	0.6	0.3	4.4		
化学	14.5	1.1	2.9	1.9	3.3		
食料品・たばこ	9.1	4.2	2.1	1.9	1.3		
電気機械	8.5	3.2	0.9	9.6	15.5		
鉄鋼	7.5	1.4	9.0	8.2	1.8		
鉱工業	100.0	2.0	1.0	0.0	1.1		

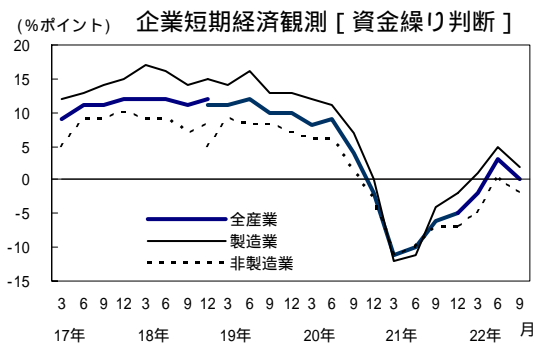
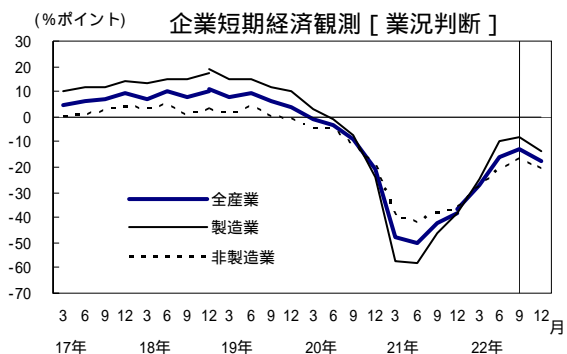
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

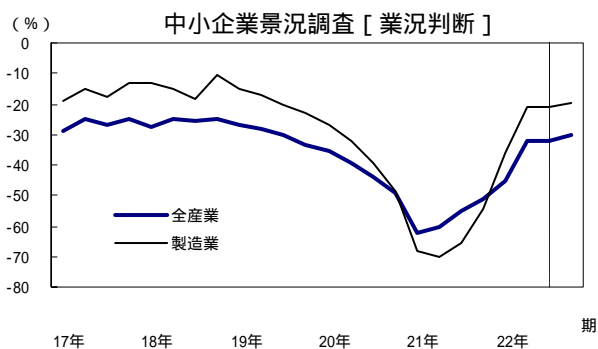
(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

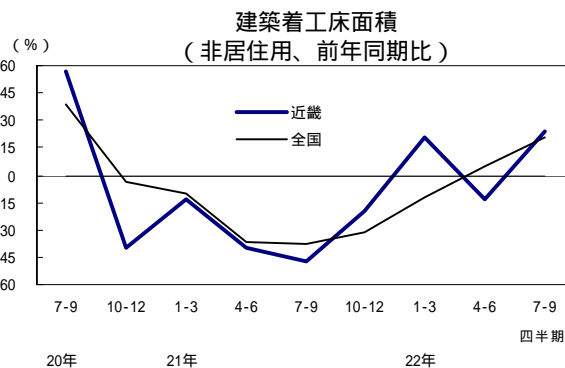
「受注状況が好転し始めた感はあるものの、中長期にみて良い感触はない(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	17.7	2.4( 0.3)
製造業	28.4	4.9( 1.3)
非製造業	7.2	0.5( 0.4)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

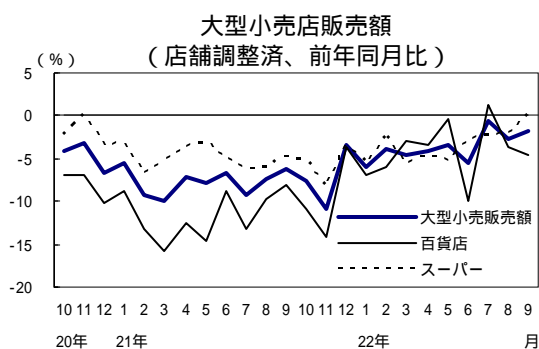
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、中旬以降の猛暑により夏物衣料を中心に好調であったことや、一部店で中元の売上計上基準の変更により飲食料品がプラスに寄与したことなどから、前年を上回った。8月は、猛暑により秋物衣料の動きが鈍かったことや、高額品が不調であったことなどから、再び前年を下回った。9月は、高額品に一部改善の動きがみられたものの、残暑により秋物衣料の不振が持続したことなどから、前年比の減少幅が拡大した。日本百貨店協会によると、10月の売上高は、大阪市、神戸市、京都市で、それぞれ前年同月比1.1%減、1.0%減、0.5%増となっている。

スーパーは、猛暑、残暑の影響により秋物衣料が不振であったものの、飲料、アイスクリーム、エアコンなどの夏物商材が好調であったことや、9月にたばこの駆け込み需要がプラスに寄与したことなどから、前年同期比の減少幅は縮小した。

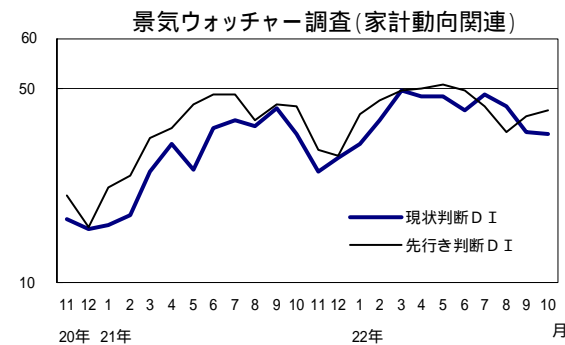
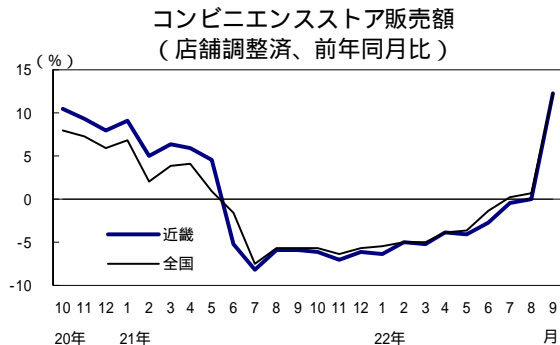
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「急に気温が低下し、冬物商品を中心に売れ始めている。また、野菜価格の高騰が落ち着き始めたことで、買上点数が増えている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	7.1	4.8	4.4	1.7
百貨店	9.0	5.3	4.7	2.0
スーパー	5.6	4.6	4.2	1.5
乗用車	20.7	24.5	20.9	2.7
景気ウォッチャー	36.2	43.6	47.3	45.1

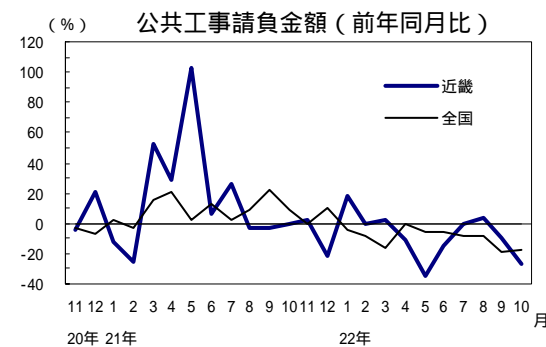
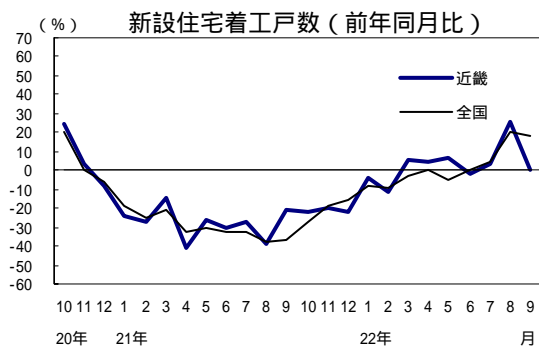
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲すべてで前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

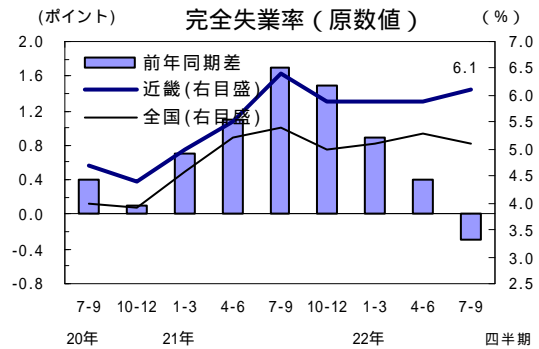
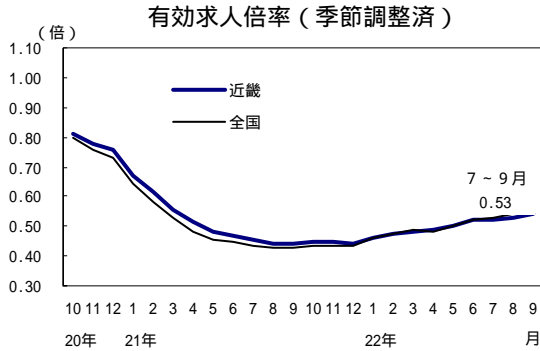


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

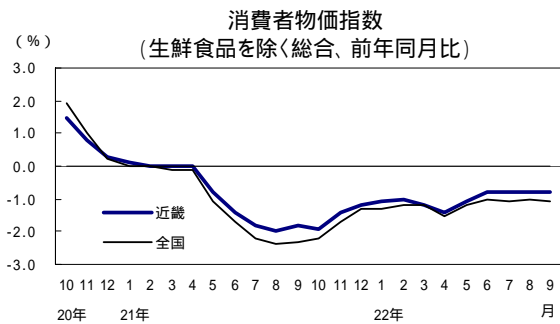
「4月以降、求人数は一定水準以上で推移しており、特に製造業からの求人が顕著に回復している。ただし、円高や株安といった不安要素も出てきている（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	941	945	936	861	351
(前年比)	6.6	12.6	15.2	18.8	2.0
負債総額	4,418	2,021	1,665	1,373	2,789
(前年比)	37.4	49.1	29.3	16.6	390.4



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・前月よりもやや上向いており、ディナーの予約も増えている（高級レストラン）

<先行き>

・これから年末にかけて小規模の工事が増えるほか、円高で輸入材料の仕入価格が下がる気配もある（建設業）

